

The Japanese Association for Metastasis Research

NEWSLETTER Vol. 43

第23回 学術集会のご案内

寄稿 清水 英治 新理事

(鳥取大学 第三内科)

二口 充 新理事

(名古屋市立大学大学院医学研究科)

第24回 学術集会のご案内

第19回 研究奨励賞募集案内

会則 / 役員選任規程 / 役員名簿 / 変更届



JAMR

日本がん転移学会

URL : <http://jamr.umin.ac.jp>

第23回日本がん転移学会学術集会(総会)の案内

会 期：平成26年(2014年)7月10日(木)、11日(金)

会 場：金沢市文化ホール (金沢市高岡町15-1)

金沢ニューグランドホテル (金沢市南町4-1)

テーマ： “がん転移を引き起こす微小環境の病態に迫る！”

おもなプログラム

- ・会長講演：太田 哲生 (第23回会長)
- ・教育講演：Blair Anderson Jobe, MD, FACS
Department of Surgery, Western Pennsylvania Hospital, Pittsburgh, Pennsylvania
- ・International Session (including Awardee presentation):
Masayuki Numata, MD
Assistant Professor, Biochemistry and Molecular Biology Faculty of Medicine,
Life Sciences Centre, Vancouver, Canada
Toshitake Hoppo, MD, Ph.D
Department of Surgery, Western Pennsylvania Hospital, Pittsburgh, Pennsylvania
- ・シンポジウム：
 - (1) がん細胞の転移形質
 - (2) がん間質内での免疫寛容と転移
 - (3) がんの進展・転移形成における血小板の役割
- ・ワークショップ：
- ・一般演題 (口演、ポスター)

◆会議予定◆

理 事 会 7月9日(水) 17:00～18:00

評議員会 7月10日(木) 12:15～13:15

金沢市文化ホール B会場 (大集会議室)

総 会 7月10日(木) 13:20～13:50

金沢市文化ホール1階 A会場 (大ホール)

総会事務局

第23回日本がん転移学会学術集会・総会 会長 太田哲生

金沢大学 消化器・乳腺・移植再生外科

〒920-8640 金沢市宝町13-1 TEL: 076-265-2362 FAX: 076-234-4260

【運営事務局】 株式会社 ネクステージ

〒920-0348 金沢市松村7-135-1 (株)金沢舞台内

TEL: 076-216-7000 FAX: 076-216-7100

E-mail: office@jamr2014.jp

ホームページ <http://jamr2014.jp/>

寄稿 1 : 私とがん転移研究

清水英治 新理事 (鳥取大学医学部 分子制御内科学)

私は昭和53年に徳島大学医学部を卒業後、当時螺良英郎教授の主宰される第三内科学教室に入局、呼吸器・膠原病を中心に内科全般の臨床研修を開始しました。教室では免疫、癌、感染症、アミロイドーシスなど多岐にわたる研究が自由闊達な雰囲気の中で行われており、自然に内科医は臨床のみならず研究も行うべきものと考えようになりました。螺良教授より分厚く頑丈な実験ノートをいただき、現研修制度のもとではあり得ないことですが、研修1年目より実験に携わる機会を得ました。当時の内科学教室は現在のように臓器別ではなく、呼吸器、消化器、血液、膠原病などすべての領域の患者さんが入院しており、自然と総合内科的診療姿勢が身につきました。主治医として最初に診た患者さんが肝臓腫瘍で発見された大腸癌の多発肝転移であり、癌は全身性疾患であると実感しました。がんをもっと勉強したいと希望し、仁井谷久暢先生、西條長宏先生の指導のもと国立がんセンターで肺癌の診療と研究を開始しました。病棟で患者さんを診察しながら末梢血単核球のNK活性やADCC活性の測定と抗癌薬の影響を研究テーマとして与えられました。この当時、肺癌の治療の中心的薬剤であるマイトマイシンの効果増強を狙ってウロキナーゼの併用療法が行われていましたが、ウロキナーゼ併用により血清中のimmunosuppressive acidic proteinなどの免疫抑制タンパク質が低下することや、抗癌薬によるNK細胞活性低下が癌転移を促進することが明らかとなり、腫瘍免疫を低下させずに肺癌を治療することの重要性を学びました。しかしながら、肺癌に対する当時の抗癌薬の効果は限定的であり、病棟主治医としてほとんどの患者さんの剖検に立ち会い、肺だけではなく脳、骨、副腎、肝臓など全身に転移していることを肉眼で確認し、臨床医としての無力感とともに転移研究の重要性を再認識させられました。一般病院に勤務後、再び国立がんセンターで勤務することになり、癌研の井上雄弘先生やがんセンターの官澤文彦先生の指導のもと原発巣や頸部リンパ節や胸水などを用いて腫瘍幹(前駆)細胞の抗癌剤感受性試験の研究を行いました。臨床検体を用い癌細胞の増殖が必須である本試験は成功率が低く、薬剤治療の効果予測バイオマーカーとしては生き残れませんでした。昭和60年に徳島大学に帰局、小倉剛教授、曾根三郎教授のもとで肺胞マクロファージやNK細胞による腫瘍免疫の研究を行い、高上洋一先生の協力を得て骨髄や血液中の造血前駆細胞の研究を行い、造血幹細胞自家移植による小細胞肺癌の転移抑制の臨床研究を行いました。平成2年10月より2年間、癌研の塚越茂先生、小倉剛教授のご尽力により日米癌研究訓練計画奨学生として米国国立癌研究所Frederic J Kaye博士のもとで癌抑制遺伝子の研究をする機会を与えられました。国立がんセンター時代の上司であった西條長宏先生よりBruce E Johnson博士をご紹介いただき、John D Minna博士を介してKaye先生を紹介いただきました。この時、肺癌研究の興味は癌遺伝子より癌抑制遺伝子に向けられていたところでした。国立がんセンターの横田淳先生が肺癌で3、13、17番染色体に癌抑制遺伝子が存在する可能性を報告してから、この遺伝子座にある癌抑制遺伝子の同定に世界中の研究者が取り組んでいましたが、米国国立癌研究所の高橋隆

先生が17番にp53を、Kaye先生が13番にRbを肺癌の癌抑制遺伝子として報告したところでした。私の研究テーマはRbの臨床応用でした。肺癌は組織型より小細胞癌と非小細胞癌に2大別されますが、非小細胞肺癌はRbの異常はまれで、小細胞肺癌ではほとんどの細胞でRbの機能喪失があることが分かりました。Rb遺伝子欠損肺癌にRbを導入すると、癌細胞の増殖速度が低下し、コロニー形成能も低下しましたが、一方、抗がん剤に対する感受性が極めて低下することがわかりました。この論文はOncogeneに掲載されましたが、癌関連遺伝子と薬物治療に関する最初の論文の一つであると思われます。帰国後、Rbの遺伝子治療などを目指して基礎的研究を行いました。遺伝子導入効率の低さの問題もあり、癌抑制遺伝子を用いた臨床研究は実施できませんでした。その後、遺伝子導入の代わりにCDK阻害薬であるUCN-01によるRb機能亢進などの研究を行いました。臨床には生かせず、2004年にマサチューセッツ総合病院がんセンターのリンチ博士よりEGFR遺伝子変異がEGFR-TKIの効果予測因子であるとの発見により、肺癌の治療が大きく変わったことは周知の通りです。平成11年より現在の鳥取大学に赴任し、国立がんセンター横田淳先生、鳥取大学押村光雄教授とのご指導をいただき、癌免疫や癌遺伝子の研究を細々ではありますが、続けてきました。最近ではNKG2D ligandである可溶性ULBP2が抗EGFR抗体依存性のADCCを抑制することを明らかにし、抗癌薬だけではなく腫瘍細胞崩壊も抗腫瘍免疫能低下に関与することを示しました。

癌の研究は癌細胞そのものの異常、癌に対する生体反応の異常、そして癌治療に関する生体や癌への影響など多岐にわたり、興味は尽きません。臨床医にとっての研究の原点は全身化した癌に苦悩する患者さんであります。これからも臨床を中心に行いながらも、臨床的視点から癌転移研究を続けて行きたいと存じます。転移学会の皆様には今後ともご指導をいただければ幸いです。

寄稿2：国際交流における腫瘍間質相互作用

二口 允 新理事（名古屋市立大学大学院医学研究科 分子毒性学分野）

ニュースレターを書くにあたりどのネタにしようかと思ひ悩みました。研究について記述するのも良いのですが、先輩方がすでに素晴らしい成果を書かれていると思ひ（自分の研究ネタで他の原稿を書いている最中という事情もある）、私はもう少し違ったネタで書いてみようと思ひました。これまでのニュースレターの内容とはかなり毛色が違いサイエンスとはほど遠い内容ですが、ご容赦願えれば幸いです。

広島大学の安井先生のお世話で開催されました第21回日本がん転移学会の時です。送付された抄録を見たら、International SessionにLynch Conorの名前を見つけました。元々彼は私の留学時代の共同研究者だったのですが、それ以降はお互い仲の良い友達で

す。早速メールして、学会終了後一緒に広島見物する約束をしました。

がん転移学会終了後何か食べようということになりました。真っ先に頭に浮かんだのは「広島風お好み焼き」ですが、「広島県民は、お好み焼きを宴会の締めラーメンの様に食べる」ということを聞いていたので、二次会は「お好み村」に設定。逆に一次会の場所に困ってしまい、N医大のK先生に相談したところ「そりゃあ、串カツだ!」。箸も必要ないしビール好きのConorも喜ぶし良いアイデアです!と予約を入れました。

この様子を見ていたRik Tompsonが「俺も行ってもいいか?」と聞きます。MRS2012の会長で偉い方だし・返答に困っていたところ「ダメか?」と残念そうな顔をします。私もConorも座長をしていただいたこともあり「高級なお店には行きませんよ、それでも良いですか?」「勿論!」ということで、Rikも乱入することになりました。

で串カツ屋さんに突入。串カツ屋のおばさんが「〇〇です」と出してくれるのですが、その度にRikもConorも「これ何?」「何て言ってるの?」と聞いてきます。「牛フィレです」「フィレミニオンや!」「タマネギです」「オニオンスライスや」「鶉の卵です」。ウズラって英語であったっけ? えーい「Small birdの卵や!」「何じゃそれ?」と一同爆笑。最初はなんじゃこいつら?という雰囲気を見ていたおばさんも、面白がって変わった串カツを出していただき、一同かなりリラックスしました(写真)。

で、二次会のお好み村へ。ここでも彼らの質問は止まりません。「目の前で料理してくれるのか?」「同じような店で競合しないのか?」。優しそうなお姉さんのいるお店を選び「焼いている時間に直接聞いてみよう」となりました。お姉さんの一挙手一投足に驚きの声があがります。キャベツが山盛り積み上がった時には「えっ!」。この山が押しつぶされた時には「へっ?」。私がコテ(広島ではヘラ)を使って食べたら「うっそお?」。でも、RikもConorも口に入れた瞬間に「ああ美味しい」という顔をしたので安心しました。

「あーお腹いっぱい、もう動けん!」と皆、上機嫌でお好み村を後にしました。フラフラと歩きながら、ふっとRikが何かに気がついたようで「あの赤いビルは何?」と聞いてきます。「あれはKaraokeのビルですよ」「へえそうなんだあ・日本のカラオケかあ・ふうん、そうなんだあ・」と興味津々な様子。「じゃあ、行ってみる?」最近のカラオケは英語の歌もあるし1時間なら大丈夫だろうと思っていました。「スタートは任せた!」と言われ、海外の曲かあ・あっそうだ!と入れた結果、皆さんしっかり踊ってくれました・YMCA。結局、3時間みっちり歌ってました(80年代の洋楽のみ)。

「いやあ、面白かった~今度のMRSの参考にするからな!とRik。後日開催されたMRSの懇親会の際、(ほぼ)全員参加のダンスパーティーが開かれました。驚くConorと私のところにやって来たRikの「どや顔」は今でも忘れられません。

「馬鹿なことをやるんじゃない!」「こんなの必要ない!」という考えを持つのも理解できますし、否定するつもりはありません。私も最初はこんな「バカ」ではありませんでした。私が大学院生のころ、何回か空港まで会ったことのない外国人を迎えに行かされました。恥ずかしいなあ、なぜこんなことをやらないといけないのかなあ? 恥ずかしいなあ

とっていました。しかし、私の師匠が外国人ゲストを迎えるたびに様々な手法で歓迎し、その後大きな成果となり実を結ぶの何度も見てきました。自分も見よう見まねで何度か経験を積み（それぞれ楽しい逸話があります）、今回 Rik や Conor と楽しい時間を共有できたことで、私の師匠が言う「経験を共有することが本当の交流」という意味が多少わかったような気がしました。これが国際交流になるとは思っていません。そもそも、考え方の違う組織間、国家間で交流というのは簡単ですが、その具体的な内容は解りません。しかし、個人的な交流ならば、柔軟性に富み、かつ強固なつながりを築くことができます。つまりは、人と人が相互に理解しあうのが、出発点となるように思います。

がんの転移巣において、腫瘍細胞は、周囲の細胞と相互作用することで、力強く増殖します。ならば、私は、周囲の方々との相互作用を深めることで、力強く前進したいと思っています（オチが強引すぎますか？）。



第24回日本がん転移学会学術集会・総会の案内

会期：平成27年(2015年)7月23日(木)、24日(金)

会場：シティプラザ大阪（大阪市中央区本町橋 2-31）

会長：伊藤 和幸（大阪府立成人病センター研究所）

テーマ：“がん転移・Driverに迫る！”

第19回日本がん転移学会研究奨励賞募集

<http://jamr.umin.ac.jp/JAMRSite/encourage.html>

本賞はすぐれた研究業績を発表した本学会会員若干名に対して、
選考の上、本学会総会において授与します。

【募集期間】

平成26年4月1日～9月30日

- ・受賞候補業績の範囲は、原則として本学会において発表された業績として、本学会会員により応募されたものとする。
- ・受賞候補者は、将来の発展が期待される若手研究者（応募年度の4月1日現在40歳を越えないこと）で過去に本学会で発表した実績がある者とする。
- ・研究奨励賞受賞者数は単年度2名程度を原則とする。
- ・研究奨励賞の賞金（奨励研究費）は1件20万円とする。

募集要項・申請書等については、下記事務局までメール・Faxでお問い合わせ下さい

■事務局■ E-mail : office-jamr@umin.ac.jp Tel / Fax 06-6971-7951

研究奨励賞受賞者一覧

	受賞者	所属
第1回	藤田 直也	東京大学分子細胞生物学研究所
	磯合 敦	旭硝子株式会社中央研究所
第2回	吉村 雅史	大阪大学医学部第二内科
	矢野 聖二	徳島大学医学部第三内科
第3回	伊藤 和幸	大阪府立成人病センター研究所
第4回	越川 直彦	スクリプス研究所/横浜市立大学
第5回	吉治 仁志	奈良県立医科大学第三内科
	軒原 浩	国立がんセンター中央病院内科
第6回	山本 博幸	札幌医科大学医学部内科学第一講座
	伊藤 彰彦	大阪大学大学院医学系研究科病理病態学
第7回	李 千萬	大阪大学大学院医学系研究科臓器制御外科
	板野 直樹	愛知医科大学分子医科学研究所
第8回	三森 功士	九州大学生体防衛医学研究所腫瘍外科
	隈元 謙介	福島県立医科大学第二外科
第9回	滝野 隆久	金沢大学がん研究所細胞機能統括
	狛 雄一朗	神戸大学大学院医学系研究科生体情報医学講座
第10回	菅原 一樹	大阪大学大学院医学系研究科
	川田 学	(財)微生物化学研究会微生物化学研究センター
第11回	加藤 幸成	産業技術総合研究所 糖鎖医学研究センター
第12回	下田 将之	慶應義塾大学医学部病理学教室
	小泉 桂一	富山大学和漢医薬学総合研究所病態生化学
第13回	渡邊 リラ	第一三共株式会社
第14回	王 偉	金沢大学がん研究所腫瘍内科
	山本 真義	浜松医科大学第2外科
第15回	清水 史郎	慶應義塾大学 理工学部
第16回	早川 芳弘	東京大学大学院薬学系研究科 生体異物学教室
	福島 剛	宮崎大学医学部 病理学講座腫瘍・再生病態学分野
第17回	山口 英樹	国立がんセンター研究所 転移浸潤シグナル研究分野
	由井 理洋	Department of Surgery, UCSF
第18回	園下 将大	京都大学大学院医学研究科 遺伝薬理学
	谷口 博昭	東京大学医科学研究所 抗体ワクチン治療研究部門

日本がん転移学会会則

第1章 会の名称

第1条 本会を「日本がん転移学会」“The Japanese Association for Metastasis Research”と称する。

第2章 目的および事業

第2条 本会は、がん転移による死亡率を減少せしめるべく、基礎、臨床、開発（薬剤、機器等）研究を通じて実質的討議を行い、がん転移研究の発展、診断・治療の進歩普及に貢献する事を目的とする。

第3条 本会は、前条の目的達成のため、次の事業を行う。

- (1) 学術集会を少なくとも年に1回開催
- (2) がん転移に関する研究発表、情報交換、資料の収集、教育及び研修
- (3) 本分野に関して海外研究者との連携
- (4) その他本会の目的達成に必要な事業

第4条 本会の事務局は、大阪市東成区中道1丁目3番3号、大阪府立成人病センター内に置く。

第3章 会員

第5条 会員は、本会の趣旨に賛同し、評議員、顧問あるいは名誉会員の推薦を受け、理事会の承認を得て入会した個人ならびに法人（法人格のない団体を含む）とする。

第6条 会員である法人の取扱いは次による。

1. 法人に所属する個人はその法人の承認を得れば本会の事業に参加できる。
2. 前項により参加する個人からは年会費を徴収しない。
3. 会員である法人は登録者3名迄と会計事務担当者1名（兼任も可）を決め事務局に届出なければならない。

第7条 会員は評議員会において別に定める会費を納入しなければならない。

第8条 引きつづき2年以上会費を滞納したものは評議員会の議により、その資格を喪失する。

第9条 顧問は理事会にて推薦、評議員会にて承認を受ける。また、本会に対して特に功労のあった者は、名誉会員・功労会員として理事会にて推薦、評議員会にて承認を受ける。顧問・名誉会員・功労会員は本会の発展のために適切な助言をする。顧問・名誉会員・功労会員は会費を要しない。

第4章 役員および役員会

第10条 本会に会長1名、副会長1名、若干名の理事ならびに評議員、監事2名、事務局幹事1名を置く。

*事務局幹事は会長が任命し、会長及び理事会の事務を補佐する

第11条 会長は本会を統括し、理事会・評議員会では議長となる。副会長は、次期会長がこれを務め、会長を補佐し会長に事故のある場合はその職務を代行する。会長・副会長の任期は1年とする。会長は本会を統し、

第12条 理事は評議員の中から選出される。任期は3年とし、任期終了後1年間は再選されない。理事は会長を補佐し日常の会務について決定し、執行する。理事会の構成は、会長・副会長・理事および前会長とする。理事会は構成員の2/3以上の出席（但し委任状を提出した人は出席とみなす）により成立し、議決は出席者の過半数をもって決する。

第13条 評議員は会員の中から選出される。評議員の任期は3年とし、再任は妨げない。評議員会は会の運営に関する重要事項を審議決定する。評議員会は評議員の1/2以上の出席（但し委任状を提出した人は出席とみなす）をもって成立し、議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

第14条 監事は評議員の中から選出される。監事の任期は1年とし、再任は妨げない。監事は本会の会計および会務を監査し、理事会・評議員会にて報告する。

第15条 次期会長・理事・評議員・監事の選出は日本がん転移学会役員選任規程に基づく。

第5章 総会および学術集会

第16条 総会は毎年1回学術集会の時期に会長が招集し、総会の議長となって次の議事を行う。

1. 会務の報告
2. 会長が必要と認める事項

総会の議事は出席者の過半数によって決する。可否同数のときは議長の決するところによる。

第17条 会長が必要と認めたときは評議員会の議を経て、臨時総会を随時開催することができる。臨時総会の議案は定期総会に準ずるものとする。

第18条 学術集会は毎年1回会長が主宰し、研究発表、意見交換を行う。

第19条 本会会則第2章第3条の4の規定に基づき各種の委員会を設けることができる。委員会の設置、その構成及び運営方法は、理事会において討議し、評議委員会にて承認する。また会の目的を達成するための具体的、実質的討議を行うため、研究推進会議(班)を設置することができる。その構成及び運営方法は理事会において討議し、評議委員会にて承認する。研究推進活動の経過については、学術集会で報告する。

第6章 会計

第20条 本会の経費は会員が拠出する会費ならびに協賛金等をもってこれにあてる。

第21条 毎年度収支決算は会長が作成し、監事の監査を受け、評議委員会の承認を得て、毎年総会において報告する。

第22条 会計年度は毎年1月1日に始まり12月31日に終わる。

第7章 会則の変更

第23条 本会会則の変更は理事会、評議委員会および総会において、各々出席構成員の2/3以上の承認を得なければならない。

付 則

1 本会則は平成12年7月1日よりこれを実施する。本会則は14年6月8日、平成18年9月3日一部改正した。

日本がん転移学会役員選任規程

第1章 役員を選任

第1条 会則第15条により次期会長(副会長)・理事・評議員および監事は本規定に基づき選出される。なお、役員は65歳をもって定年とする。

第2章 次期会長(副会長)の選出方法

第2条 次期会長の選出に際しては、評議員全員に告示する。候補者は所定の様式で抱負を述べた資料を理事会に提出し、理事会はこれを討議し候補者1名を推薦する。

第3条 次期会長の選出は評議員会で行う。

第3章 理事の定数と選出方法

第4条 理事の定数は個人評議員より約6名(原則として基礎3名、臨床3名)、法人評議員より約2名とする。

第5条 理事は会則第12条により評議員の中から選出される。

第6条 個人会員理事は評議員の選挙により選出される。候補者は所定の様式で抱負を述べた資料を評議員会に提出する。

第7条 法人会員理事は理事の選挙により選出される。

第4章 評議員の選出方法

第8条 評議員は会則第13条により会員の中から選出される。

第9条 評議員の選出は理事会で行う。

第10条 個人評議員は、一定の条件(細則に定める)を満たす者とする。

第11条 個人評議員の候補者は所定の様式による資料を本会事務局に届け出ること。

第12条 法人会員評議員は理事会で選出する。

第5章 監事の選出方法

第13条 監事は会則第14条により評議員の中から選出される。

第14条 監事の選出は理事会で行う。

付則

1. 理事選挙の施行は次期評議員が選出された(平成15年度)以降とする。
2. 本役員選任規程は平成14年6月8日よりこれを実施する。本役員選任規程は平成15年6月29日一部改正。
3. 本規程の変更は理事会および評議員会において、各々出席構成員の2/3以上の承認を得なければならない。
4. 役員任期は、65歳になる年の12月末で終了する。

日本がん転移学会役員選任規程細則

1. 個人会員理事の選出方法

- 1) 投票は原則として郵送とする。
- 2) 評議員は基礎系候補・臨床系候補に各1票投票する。

2. 個人評議員の選出条件

- 1) 原則として3年以上本会会員であり、会費を完納していること。
- 2) 本会や関連学会、学術雑誌などですぐれた評価を受けていること。

3. 評議員の資格

- 1) 3年連続して評議員会を欠席した者はその資格を喪失する。

日本がん転移学会 顧問・名誉会員

顧問：	菅野 晴夫	杉村 隆	(故) 明渡 均	
名誉会員：	愛甲 孝	小林 博	(故) 佐藤 春郎	未舛 恵一
	田中 健蔵	田原 榮一	塚越 茂	(故) 鶴尾 隆
	新津 洋司郎	螺良 英郎	(故) 中村 久也	(故) 磨伊 正義
	宮坂 昌之	門田 守人	渡辺 寛	Isaiah J. Fidler
功労会員：	東 市郎	(故) 阿部 薫	(故) 尾形 悦郎	垣添 忠生
	北島 政樹	(故) 久保田 哲朗	桑野 信彦	佐治 重豊
	清水 暁	高橋 俊雄	竜田 正晴	寺田 雅昭
	豊島久真男	(故) 馬場 正三	宝来 威	細川 真澄男
	宮城 妙子	武藤 徹一郎		

日本がん転移学会役員

会長：	太田 哲生 (23回)			
副会長：	伊藤 和幸			
前会長：	谷口 俊一郎			
理事：	北台 靖彦	清水 英治	藤田 直也	二口 充
	松浦 成昭	渡邊 昌彦	旭硝子(株)	第一三共(株)
監事：	安井 弥	協和発酵キリン(株)		
評議員：	足立 靖	石井 秀始	板野 直樹	伊藤 壽記
	伊東 文生	井上 正宏	入村 達郎	植田 政嗣
	上原 久典	海野 倫明	大上 直秀	小野 真弓
	岡田 太	岡田 保典	奥野 清隆	片岡 寛章
	加藤 淳二	川田 学	神奈木 玲児	北川 透
	北川 雄光	国安 弘基	隈元 謙介	小泉 桂一
	越川 直彦	小林 浩	今野 弘之	済木 育夫
	堺 隆一	佐藤 博	澤田 鉄二	清木 元治
	高橋 豊	滝野 隆久	竹田 和由	竹之下 誠一
	田中 稔之	田中 紀子	茶山 一彰	土岐 祐一郎
	中津川 重一	中森 正二	夏越 祥次	西岡 安彦
	西村 行生	馬場 秀夫	浜田 淳一	早川 芳弘
	東 伸昭	樋田 京子	三森 功士	向田 直史
	森 正樹	八代 正和	安本 和生	柳川 天志
	矢野 聖二	山本 博幸	矢守 隆夫	横崎 宏
	横山 省三	吉川 秀樹	吉治 仁志	
	エーザイ(株)	サノフィ(株)		
	大鵬薬品工業(株)	中外製薬(株)	日本化薬(株)	

(アイウエオ順)

事務局幹事：(代理)井上正宏

(法人評議員については登録会員の中から各社より各1名選任される)
 評議員任期：平成24年7月14日～平成27年/第24回総会まで
 (第22-24回)

日本がん転移学会連絡用紙

日本がん転移学会会員の種々の変更・退会等の連絡は必ずこの用紙をご利用下さい。
会員番号（宛名ラベルに印刷してある貴氏名の右下の数字）、並びにご氏名（フリガナ）を明記の上、
変更したい事項をご記入いただき、封書またはFax、E-mailにてご連絡下さい。

年 月 日

住所等変更・退会 届 (上記、どちらかを○で囲んで下さい)

(フリガナ)		会員番号	
氏 名		生年月日	年 月 日
勤 務 先	勤務先名称（部所属も記入して下さい）		
	〒		
	Tel	Fax	
	E-mail		
自 宅	〒		
	Tel	Fax	
	E-mail		
雑誌等送付先を○で囲んで下さい。 勤務先 ・ 自宅			
変更年月日	201	年 月 日	付で変更します。
退 会 届	201	年 月 日	付でもって退会します。
その他			

※個人情報について

会員への連絡、会誌等の発送等、学会活動の目的に限定して利用します。

編集後記

毎年春号は4月に発行していますが、諸事情により今年は大変遅くなり申し訳ありませんでした。

7月の学術集会は3度目の金沢開催となりましたが、会長により違った趣になっていると思います。楽しんでご参加いただければ幸いです。

=====

[発行・編集]

日本がん転移学会事務局

Tel/Fax 06-6971-7951 (直通)

E-mail: office-jamr@umin.ac.jp

〒537-8511

大阪市東成区中道1-3-3

大阪府立成人病センター内

=====

2014.5